

PRESS RELEASE (2026/02/24)

## 持続的な食料供給システムの実現に向けた提言を策定・公表

～環境と生産性を両立する「ONE-アグリシステム」：生態系サービスと価値循環の可視化で実現する 2050 年の地域と食～

九州大学は、社会的課題の解決に必要な総合知を生み出し、社会変革に貢献することを目標に、「未来社会デザイン統括本部 (FS 本部)」を設置しています。FS 本部では、理想とする未来社会の姿を示した上で、脱炭素、医療・健康、環境・食料をはじめとする様々な分野の課題の解決に向けたプロセスをデザインし、理想とする未来社会の実現に向け、大学が持つ様々な研究成果を組み合わせることで社会に展開・実装していく「バックキャストによる課題解決」を目指しています。

このたび、食料生産に関わる地球規模の課題の解決に向け、FS 本部の多様な研究者が共同して、持続的な食料供給システムの実現に必要な 2 つの仕組み（「ONE-アグリシステム」「学術×実践循環による地域イノベーション・システム」）を提案する「提言」を策定しました。詳細については Web サイトをご覧ください。<https://in2fs.kyushu-u.ac.jp/news/teigen-2026-2/>

### 【提言の目的】

- ①本提言のビジョン・コンセプト・方法を、持続可能な食料生産に関わる地域の政策づくりや事業構想の手法として、自治体や企業等に役立てていただく。
- ②本提言が提案する「ONE-アグリシステム」を自治体や企業等と共同で実装していくことを目指す。「学術×実践循環による地域イノベーション・システム」を大学・自治体・企業・生産現場の連携で実現する。

### 【提言の概要】

環境・生産・消費をつなぐ技術と仕組みで、真に持続的な食料供給システムを実現する。

